

令和2年9月市議会定例会 一般質問

個別質問答弁書

質問第14号

渡辺 正博

議員

上田市議会一般質問【個別質問】・答弁書

令和2年9月 定例会

質問通告番号第	14	号	質問議員	渡辺 正博	議員	担当課	学校教育課
質問要旨				答 弁			
1 教育行政についての質問				① 児童生徒の変化ですが、6月から通常登校を再開した直後は、「友達や先生と会えて嬉しかった、楽しかった」という声や、授業に真剣に向き合う姿が多く見られました。一方で、長期休業によって、基本的な生活習慣が崩れている、不安感を抱いている、心身の不調を訴えている、体力が低下している、といった児童生徒も見受けられました。			
(1) 学校における「新しい生活様式」について				② 最近では、環境や生活の変化、今までになかった新しい生活様式による学校生活などにより、疲れも見え始めている様子も窺える状況です。			
ア 学校再開後の児童生徒の変化や学校の現状はどうか。また、スクールカウンセラー等とは情報共有を行っているか。				③ 学校においては、様々な悩みや不安を抱える児童生徒を支援するために、スクールカウンセラー等も含め、校長を中心とした学校というチーム全体で、一人ひとりの様子を丁寧に見守り、きめ細かな支援を行っています。			
				④ スクールカウンセラーについては、県から5名の派遣を受け、臨床心理士等の資格をお持ちの方が心理の専門職として中学校区に配置しています。			

上田市議会一般質問【個別質問】・答弁書

令和2年9月 定例会

質問通告番号第	14	号	質問議員	渡辺 正博	議員	担当課	学校教育課
質問要旨				答 弁			
				これに加え、上田地域定住自立圏事業として、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーそれぞれ1名を学校からの要請により派遣しています。			
				⑤ スクールカウンセラーは、児童生徒や保護者からの悩みや不安、また学校には直接言いにくい事についても、専門的見地や教員とは異なる立場から、カウンセリング等を行い、了承を得た上で学校にお伝えしています。			
				⑥ 学校再開後にスクールカウンセラー等に寄せられた相談としては、長期休業による登校リズムや生活リズムの乱れ、昼夜逆転やゲームへの依存、コロナを恐れ外にも出たがらない、人と会うことが怖い、体調の悪化による不安、母子分離の困難さ、家庭内でのストレス等がありました。			
				⑦ このような悩みや不安に対して、スクールカウンセラーは当事者との信頼関係の下、守秘義務を守りながら相談に応じていますが、命に関わるような情報については、学校と情報共有を図り、連携・協力しながら状況に応じた支援を			

上田市議会一般質問【個別質問】・答弁書

令和2年9月 定例会

質問通告番号第	14	号	質問議員	渡辺 正博	議員	担当課	学校教育課
質問要旨				答 弁			
				行っています。			
イ 学校の教室だけがコロナ禍以前と変わらず密接した空間であり、国が提唱し、身体的距離の確保を推奨する「新しい生活様式」に矛盾していると考え、見解はどうか。				① 新型コロナウイルス感染症の感染の拡大防止への取組が長期的な対応が求められている状況となっています。			
また、学校では教室内で座っている時間が最も長い、身体的距離を一定程度保つことを保障すべきと考え、見解はどうか。				② こうした中、持続的に児童生徒の最大限の学びを保障していくため、学校における感染及びその拡大のリスクを可能な限り低減した上で、学校運営を継続していく必要があります。			
				③ 学校運営にあたり、文部科学省の作成した「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」を参考として、学校における感染拡大の防止に継続して取り組んでいます。			
				④ 「新しい生活様式」では、人との間隔は、できるだけ2メートル（最低1メートル）空けることを推奨しています。			

上田市議会一般質問【個別質問】・答弁書

令和2年9月 定例会

質問通告番号第	14	号	質問議員	渡辺 正博	議員	担当課	学校教育課
質問要旨				答 弁			
				⑤ この身体的距離を確保するため、学校では不要な荷物を廊下に出し、給食は対面で食べない等様々な工夫を行っているところですが、30人以上の規模の学級では1メートルの確保は難しい状況もあります。			
				⑥ 新型コロナウイルス感染症は、換気の悪い密閉空間、多数が集まる密集場所、間近で会話や発声をする密接場所という3つの密が重なる場で、集団感染のリスクが高まるとされていますので、この3つの条件が同時に重なる場を避けなければなりません。			
				⑦ このため、身体的距離の確保が困難な場合でも、「密閉」の回避として、エアコン使用時においても2方向の窓を同時に空けて定期的な換気を徹底しています。			
				⑧ さらに、国の2次補正において、「学校再開に伴う感染症対策・学習保障等に係る支援事業」が創設されたことからこの財源を活用し、9月補正予算（5			

上田市議会一般質問【個別質問】・答弁書

令和2年9月 定例会

質問通告番号第	14	号	質問議員	渡辺 正博	議員	担当課	学校教育課
質問要旨				答 弁			
				号補正) において、教室における3密対策として、換気に必要なサーキュレーターや体調の悪い児童生徒が集まる保健室への空気清浄機の配置を早急に行っていきたいと考えています。			
				⑨ 学校の教室における身体的距離は、「新しい生活様式」で推奨されている距離を確保するという観点においては、30人以上の学級では困難な点があるかもしれませんが、まずは新型コロナウイルス感染症の感染経路を絶つため、マスクの着用、手洗い、咳エチケット、清掃・消毒といった基本的な感染症対策の強化を図り、「密閉」、「密集」、「密接」の3つの密の条件が同時に重なることがないように、学校の実情に応じ工夫した最大限の感染対策を行うことで、感染のリスクの低減に繋がると考えています。			
ウ	分散登校による教職員への負担をどのように捉えているか。また、児童生徒へどのような影響を与えたか。			① 市では、児童生徒の心身の健康状況を把握し、学校生活に慣れながら学習活動を行うことを目的に5月18日から5月末まで、分散登校を実施しました。			

上田市議会一般質問【個別質問】・答弁書

令和2年9月 定例会

質問通告番号第	14	号	質問議員	渡辺 正博	議員	担当課	学校教育課
質問要旨				答 弁			
				② 分散登校では、感染予防の観点から、学習場所の人数を制限し3密を回避する方式をとりました。分散登校の形態は、学校ごとで異なりますが、地区別や名簿別などにより、クラスを複数に分け登校しました。			
				③ この分散登校中における教職員の負担として、クラスを複数に分けたことから、同じ内容の授業を複数回行わなければならないことや日程調整、児童生徒の入替ごとに消毒を行うこと、手洗い場など密を避けるためのソーシャルディスタンスの環境づくりなどが、これまでになかったものとして挙げられます。			
				④ しかし、反面、この分散登校中には、不登校気味であった児童生徒がクラスの人数が制限されたため登校できたり、オンライン授業に参加することができた、分散登校をきっかけに学校再開後も登校を続けているといった事例もありました。			
				⑤ 授業の方法を工夫すれば学校に来ることができる、すべての児童生徒の教育の機会を確保しながら、最善の授業のあり方を模索する機会にもなったと感じています。			

上田市議会一般質問【個別質問】・答弁書

令和2年9月 定例会

質問通告番号第	14	号	質問議員	渡辺 正博	議員	担当課	学校教育課
質問要旨				答 弁			
<p>エ 全国知事会や全国市長会、全国町村会は、「新しい時代の学びの環境整備に向けた緊急提言」として少人数編成を可能とする教員の確保を国に要望している。また、国の経済財政運営の指針である「骨太の方針」の原案に少人数指導体制の整備が盛り込まれるなど、教育体制の転換につながる動きが活発になりつつあるが、このような動きをどのように捉えているか。</p>				<p>① 全国知事会や全国市長会などの提言で、少人数編成を要望する動きが活発化していることは承知しています。</p>			
				<p>② 現在の国の基準では、1クラス40人の学級編成となっていますが、長野県では、上限35人とする30人規模とし、国と比較して手厚い基準で学級編成をしています。</p>			
				<p>③ また、平成30年3月に策定した長野県教育振興基本計画においても、30人規模学級編成を維持していくとされ、一人ひとりに応じたきめ細かな指導を行うことによって学習習慣や生活習慣の定着、基礎学力の向上を図るとしています。</p>			
				<p>④ 市内の状況を申し上げますと、30人規模学級編成に加え、英語や数学、算数について、少人数学習集団編成や生徒の習熟度に応じた少人数でのグループ編成など、柔軟な授業形態を取っている学校もあります。</p>			

上田市議会一般質問【個別質問】・答弁書

令和2年9月 定例会

質問通告番号第	14	号	質問議員	渡辺 正博	議員	担当課	学校教育課
質問要旨				答 弁			
				⑤ 少人数指導体制には、児童生徒の一人ひとりに目が行き届き、きめ細かな指導を行いやすいというメリットがあります。一方で、ある程度の規模の集団の中で多様な考え方に触れる機会や学び合いの機会が少なくなるなどのデメリットや、少人数編成となった場合の教室の確保、教員の確保等、国の財源等には限界があると考えています。			
				⑥ また、現在、中央教育審議会の「新しい時代の初等中等教育の在り方特別部会」においては、小学校における教科担任制の導入も議論されており、従来の学びの風景が大きく変わる可能性もあります。			
				⑦ 市としましては、子どもたちにとっての最適な学びの環境を整備することを第一として考え、国の動向を見守っていきます。			

上田市議会一般質問【個別質問】・答弁書

令和2年9月 定例会

質問通告番号第	14	号	質問議員	渡辺 正博	議員	担当課	学校教育課
質問要旨				答 弁			
オ 市民やPTA、学校関係者で少人数学級について話し合う場を持つことが必要と考えるが、見解はどうか。				<p>① 教育委員会では、平成30年度に「上田市小中学校のあり方検討委員会」を設置し、人口減少など社会が大きく変化する中で、子どもたちがよりよく成長し、自立して生き抜く力を育むためには、どのような小中学校のあり方が望ましいか検討しています。</p> <p>② この委員会には、市民の方、PTAの代表者、学校関係者も含まれており、委員会では、上田市として、どういう子どもを育てたいのかという「目指す子ども像」の他、学級数や1学級あたりの児童生徒数、学校全体の児童生徒数なども議論しているところです。</p> <p>③ 委員会では、適正な学級規模についても議論が行われ、40人のような大規模学級よりも人数が少ない方が、きめ細かな指導ができるといった御意見もいただいています。</p>			

上田市議会一般質問【個別質問】・答弁書

令和2年9月 定例会

質問通告番号第	14	号	質問議員	渡辺 正博	議員	担当課	教育総務課
質問要旨				答 弁			
1 教育行政についての質問				① 第二学校給食センターは、施設の老朽化に伴い改築が喫緊の課題となっております。			
(2) 上田市第二学校給食センター改築基本計画				り、教育委員会では「上田市第二学校給食センター改築基本計画」を策定し、			
について				令和5年2学期からの稼働を目指し、取り組んでいます。			
ア センター方式では課題や限界が多くある中				② この改築基本計画ですが、上田市の学校給食の理念である「次世代を担う			
で、教育委員会が策定した上田市第二学校給				子どもたちをはぐくむ学校給食」に基づき、施設に求める諸条件など、改築を			
食センター改築基本計画に対する市長の見				進めるうえでの必要事項が盛り込まれています。今後の事業を着実に進める上			
解はどうか。				での方針となるものと認識しています。			
				③ 学校給食については、主にセンター方式、自校方式があり、それぞれに課題			
				があると認識しています。市長である私としましては、当市が置かれた状況や			
				中長期的な視点を踏まえ、第二学校給食センターの改築を選択しましたので、			
				そこに生じる課題がある場合には、これにしっかりと向き合い、対応していく			
				ことが大切であると考えています。			

上田市議会一般質問【個別質問】・答弁書

令和2年9月 定例会

質問通告番号第	14	号	質問議員	渡辺 正博	議員	担当課	教育総務課
質問要旨				答 弁			
				<p>④ センター方式の課題としては、自校方式に比べると</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食センターから各学校へ配送する時間も必要なことから、調理時間を確保するための工夫や調理後の適切な温度管理が必要となること ・また、アレルギー対応を行う場合、より慎重な検討・準備が求められることなどがあると考えます。 			
				<p>⑤ 改築基本計画においては、徹底した衛生管理はもとより、「心のこもったおいしい給食づくりに向けた取組」や「食物アレルギー対応」についても言及されており、センター方式の課題への対応も検討されているものと受け止めています。</p>			
				<p>⑥ 加えて、食物アレルギー対応に関しては、今年度、教育委員会において「上田市食物アレルギー対応検討委員会」を立ち上げ、学校給食において、より安全にアレルギー対応を進めることができるよう検討に着手しているとのことです。</p>			

上田市議会一般質問【個別質問】・答弁書

令和2年9月 定例会

質問通告番号第	14	号	質問議員	渡辺 正博	議員	担当課	教育総務課
質問要旨				答 弁			
				<p>⑦ また、先般、この改築基本計画に基づき、施設の設計者及び厨房機器業者の選定をプロポーザル方式で実施しています。これは、民間企業のノウハウを最大限活用した提案を求め、本事業に最も適した設計者及び厨房機器業者を選定しようというものです。このように質の高い建築設計と最適な厨房機器の選択を目指すことは、センター方式の課題を最小化し、自校方式の良さをできるだけ取り入れた給食センターを整備するための取組の1つであると考えています。</p>			
				<p>⑧ 今後、施設の設計に着手し改築事業が本格化していきます。引き続き、教育委員会と連携し、子どもたちに安全安心でおいしい学校給食を安定的に提供することができる施設となるよう取り組んでいきます。</p>			